



シリーズ
企業訪問

ワイザーエル株式会社

～ 工業製品を護る包装資材の
スペシャリスト企業 ～

企業概要

代表者：山岸 竜大

所在地：福島市庄野字清水尻1-9

資本金：4,000万円

従業員：70名

事業概要：工業用包装関連の資材・製品の製造、販売

創立：1954年7月

TEL：024-593-5570

FAX：024-593-5597

URL：<http://www.ygl.co.jp/>

E-mail：order@ygl.co.jp



代表取締役社長

山岸竜大 (やまきし たつひろ)

東日本大震災から1年が経過しましたが、福島県内の企業は今も放射能問題による風評的な影響を受けています。そのような中であっても本県企業は地域を支えるため、また日本を支えるべく努力しています。

福島県は工業製品出荷額が東北第1位の工業県であり、様々な工業製品が県内外に出荷されています。工業製品を運ぶ際には、トレイに格納することや緩衝材などで包装し衝撃から護る必要

があります。

ワイザーエル(株)は、工業用包装資材の製造・販売会社であり、当社製品によって国内外の多くの工業製品が包装・梱包されています。そこで今回は山岸社長に創業から現在までの歩みと業務内容などについてお聞きしました。

○創業について

当社は、地元の製造会社を脱サラした私の祖父



本社工場・本社社屋

山岸権兵衛によって昭和29年に創立されました。創業地の福島市庭坂は果物栽培が盛んな地域であり、木材を糸状にして果物などを梱包する木毛を製造販売していました。昭和33年に有限会社山岸木毛工場として法人化しています。高度成長期に入るまでは、山で木を伐採し社名のとおり木毛を製造し地元の農家相手に売り歩く会社でした。その後、福島市西部に工場が進出するようになり、工業製品の梱包を手掛けるようになりました。昭和46年に有限会社山岸梱包資材に社名変更したころには、農業用から工業製品主体の取扱に変わり、今では取扱の99%が工業製品用となっています。

現社名になったのは平成2年であり、その年に現在地へ本社事務所と工場を移しています。社名のYGLは、Y（山岸）G（権兵衛）L（ロジスティクス）からきています。2代目社長である私の父山岸則紀（現会長）を経て、私が3代目社長に就任したのは平成23年10月です。私自身については、大学卒業後、精密機器メーカーでの営業など家業とは異なる業界で働いた後、平成11年に当社へ入社しました。

○取扱い業務について

製造部門には、ポリ袋部門、ラベル部門、トレイなどの真空成型品部門、緩衝材部門の4つの柱があります。以前は同じような比率でしたが、今では真空成型品部門とラベル部門で売上の約5割

を占めています。

包装業界では、成型品やラベルなど複数の部門を扱っている会社は多くありません。当社は工業製品の包装に関してほぼ全般的に取り扱っている工業包装資材総合メーカーです。当社1社に発注頂ければ、一通りの包装ができるため、ワンストップで済むメリットがあります。また、当社で包装の設計を行いますので、設計から納品まで包装の全てを当社にお任せ頂けます。

当社製品の中では、特に部品トレイの設計力、コスト、品質については自信があります。工業メーカーにとっては、包装に多くの予算はかけられません。その中で、私たちはお客様にとって最適な商品を提案しています。

○生産体制について

生産については、ほぼ受注生産となっています。工場では、8：30～17：30が通常の稼働時間ですが、時期によってはシフト勤務で対応する場合があります。

ラベル製品は、塵が付着しないようクリーンルーム内で製造しています。さらに目視も行う全数検査を実施し、異物はないか、色づけは大丈夫かなど厳しい目でチェックしています。

当社では、シミュレーションによる落下試験を行った後、サンプルを取引先に持ち込んでいます。取引先では更に実際の落下試験を行っており、それにクリアしたものを出荷しています。



トレイを作る自動成型機



ラベル印刷機

工場内は、仕掛品を受注頻度によりグループ分けし、グループ毎の色を付けたテープの内側に収納し、どの品が優先されるか一目でわかるようにしています。

○営業について

当社は創業以来「開拓精神 限りなき挑戦」を胸に常に新しいチャレンジを続けています。全ての人をお客様として捉え、全社員が営業精神で行動しています。私自身がメーカーに勤務し営業部門600名の中で揉まれて成長した経験から、新規開拓に対する思いは人一倍強いです。

当社は製造業ではありますが、商社からの取次を待つ受け身の姿勢ではなく、積極的に仕事を取りに向かう営業的な会社の姿勢を持ち続けています。

○海外進出について

当社は、平成14年に中国、平成19年にベトナムに工場を設立しています。いずれも、受注を約束された進出では無くゼロからのスタートでした。中国については、取引メーカーに商社を紹介され中国視察したのがきっかけです。現地の工場に当社が納めた製品があったことから、これからは我々も中国国内での現地生産が絶対に必要になるとの危機感を抱いたからです。現地の信頼おける方にも経営に入ってもらい、合弁会社を設立するに至りました。



目視も行う厳しい製品チェック

ベトナムについては、同国に進出しているユーザーにターゲットを絞り工場進出しました。会社のリスクを考え、私と会長の個人出資としました。現在は同国に条件が良い進出場所がないようですので、進出するには最高のタイミングでした。

海外工場については、日本に輸出するためではなく、現地工場に売る製品は現地で作るという考えです。

○社員教育について

私が社長就任した際、ワクワク感に溢れた夢のある会社になるための「YGL『心』ビジョン」を策定しました。「社員・協力会社・顧客に感動を与える会社になる」など5つのビジョンから成ります。また、「今の自分は過去の結果。未来の自分は今日の結果」「自己啓発を忘れない。一生勉強である」など12か条から成る「YGL社員心得」も策定し、社内トイレなどに貼って社員に意識徹底させています。

この「YGL社員心得」と社員それぞれが各自で決めた「使命」「自訓」を名刺サイズのカードに印刷、私を含めた全社員が常に携行しています。仕事に行き詰まった時にそれを見れば原点に立ち返ることができると思います。

私の考えを社員に周知徹底させることに重きを置いています。例えば、コスト意識の徹底については、「Label is Money」という私の顔写真付きのポスターを工場内に何か所も貼っています。ラベルの廃棄コストが1枚何円、1カ月で何円、1年で何円、10年で何円と具体的な金額を日常的に目にするによって、意識向上が図れると考えます。

私の考えは、工場や営業所など離れていると社内での意思徹底が図れませんから、ツイッター等での情報発信なども検討していきます。

○震災とその対応について

当社では、本社において天井や物が落下するなど一部損壊しました。しかし、幸いなことに

社員はみな無事でしたし、市内3工場の設備に被害はありませんでした。断水が続きガソリン不足の状況下ではありましたが、製品納入先のメーカーが運送会社の手配も行ってから発注して頂いたので、3月14日には生産を再開しました。

原発事故直後は、ヨーロッパ向けに輸出しているメーカーから、製品の放射線量に関する問い合わせがありました。放射線量を懸念する声は1カ月ほどで収まりましたが、BCP（事業継続計画）を考え、平成23年9月に岩手県一関市に事業所を設けました。福島で生産した製品は受け入れられないという方にはメードイン一関で対応できます。一関事業所には、同県の自動車産業立地が魅力であることや青森県と福島県の間地点である立地条件から決めました。

○エコエナジー事業について

平成22年にエコエナジー事業部を立ち上げて、京セラ製住宅用太陽光発電システムとオール電化関連機器の代理店事業を始めました。私どもは最終的に廃棄物となる製品を扱っていることもあって、環境保全やCO₂削減などの環境ビジネスに以前から興味がありました。そこで、LED照明販売などとともにエコ関連製品を取り扱うようになりました。

我が社はこれまで法人営業だけであり、個人相手の取引は初めてのことでした。しかし、当社社員が京セラ代理店東北地区の売上優秀賞を受賞



自社敷地にも太陽光発電システムを設置

するなど、社員は営業活動を頑張っています。

また、地域貢献の一環として、避難児童も在籍している近隣の小学校に太陽光発電システムを寄贈しました。寄付したものがどのように使われ、誰に喜んでもらっているかが見える支援がしたいという社員の意見によるものです。生徒達が環境問題と節電に関心を持つきっかけになればと願います。

○今後について

包装業界としては、部品製造会社が海外に出ていく動きはあるでしょうから、私どもも海外に行こうかという思いはあります。しかし、まだまだ国内市場に可能性があるかと捉えています。そのためには、可能性がある地域に国内営業拠点を増やし、今後も挑戦する姿勢で取り組んでいきたいと考えています。大分営業所、一関事業所に続き、今年3月には京都営業所も開設します。

日本のモノづくりを下支えすることが我々の社会に果たすべき使命と考えています。「Always Next Stage」をモットーに、常に次のステージに向かって行動する集団であり続けます。感動と感謝に溢れた福島発企業として邁進し、「福島企業」から「福島にもある企業」への進化を目指したいと思います。

【インタビューを終えて】

社長と面談した中で、何百人の中で揉まれた営業マン時代の経験や2年前に始めた趣味のフルマラソンなどから、明るくバイタリティに富んだ印象を受けました。

主力製品の真空成型品とラベルを製造する上名倉工場を見学しましたが、社長同様、社員の皆さんの元気な挨拶が印象に残りました。当社などが製造した包装製品は、本県や日本製の工業製品を大切に護る重要な役割を持つことをあらためて認識できた取材となりました。

(担当：高橋)